

研究・調査報告書

報告書番号	担当
491	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
<p>Ethanol preference is inversely correlated with ethanol-induced dopamine release in 2 substrains of C57BL/6 mice.</p> <p>C57BL/6 マウスの 2 つのサブ系統でエタノール嗜好性はエタノール誘発性ドーパミン放出と逆相関する</p>	
執筆者	
Ramachandra V, Phuc S, Franco AC, Gonzales RA.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol Clin Exp Res. 2007 Oct;31(10):1669-76.	
キーワード	
嗜好性、エタノール、ドーパミン	
要 旨	
<p>C57BL/6 マウスは飲酒研究でよく用いられるが、サブ系統でエタノール嗜好性に顕著な違いが見られる。ドーパミンはエタノールの強化作用に関係があり、腹側線条体におけるエタノール誘発性ドーパミン放出の違いが飲酒行動の多様性に寄与している可能性がある。C57BL/6J と C57BL/6NCrl で 2 瓶選択実験を行い、エタノール嗜好性を調べた。また、マウスにエタノール (1.0、2.0、3.0g/kg) を腹腔内投与後マイクロダイアリシスでドーパミン放出とエタノールクリアランスを見た。C57BL/6NCrl に比べて C57BL/6J では顕著にエタノール嗜好性が高く、エタノール誘発性ドーパミン放出も多かった。エタノールの腹腔内投与のいずれの投与量でも、両マウスで顕著にドーパミン放出が増加し、3.0g/kg 投与では C57BL/6NCrl に比べて有意に C57BL/6J でドーパミン放出が高かった。以上より、腹側線条体におけるエタノール誘発性ドーパミン放出が C57BL/6J と C57BL/6NCrl のエタノール嗜好性の違いに関与していることが示唆された。</p>	